

神奈川ウォーキング参加 H26-19

第 174 回例会

梅がほほえむ

久良岐・岡村・根岸森林公園へ



日時 : 平成 27 年 2 月 1 日 (日)

集合 : 京急線・屏風浦駅 9:45 出発 10:00

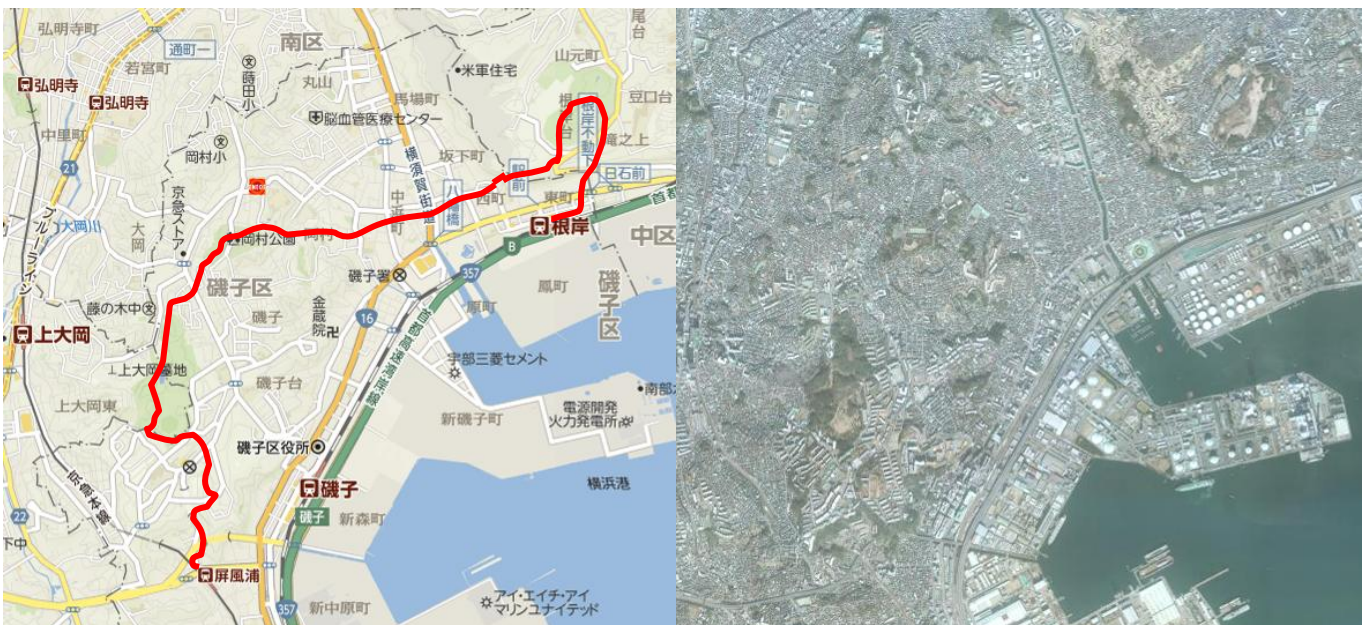
コース : 屏風浦駅→森浅間神社→久良岐公園 (能舞台)→岡村公園 (岡村天神)→根岸森林公園→根岸駅
17,000 歩 約 12 km (伊藤自宅含め 21,000 歩)

参加者 : 平嶋 L・中村 SL・斎藤 SL を含め 45 名

天候 : 終日快晴

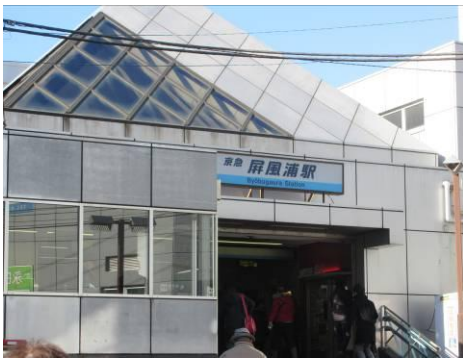
追記 : HP には小島レポートが掲載されています。サブレポートとしてご覧下さい。

【コースマップ&航空写真地図】平嶋 L のメモに有るように屏風浦海岸は錦の屏風を広げた様な美しい眺めで、名づけられた。現在の市街地は埋立地で、今日の各公園標高は約 50 m 前後の様です。石段を上り下りしました。地図上距離は約 9 km ですが曲がりくねり、登り下りで歩数は 17,000 歩になりました。



<地図と航空写真は同じ縮尺です>

びょうがぶら
【屏風浦駅】 初めて降りた駅でした。1930年湘南電鉄「屏風ヶ浦駅」で開業し、1945年この地の村名「屏風浦駅」に改名しましたが読むときは「が」が入ります。班長には会員 N0286 山本・268 市村・283 志村の新しい方を指名されました。平嶋 L 御配慮。**【森浅間神社下社】** で佐藤伊さんによるストレッチと、平嶋 L コース説明。



【森浅間神社】 下社から約 200 段の石段を登ると色鮮やかな真赤な神社です。房総半島へ渡る海路の要所であった森村に鎌倉幕府が陣屋を設けた際、海が一望できる「我沙羅山」山頂の当地に富士山の神霊を祀ったのが起源のようです。真横に伸びた庭木と大神輿は立派です。祭のときはこの神輿を担ぎ石段を下る



朝日不動滝（湧水）と二又大木の御神木

汐見台コンビニ前が出る 再び登ると**【久良岐公園】** ↓桜林

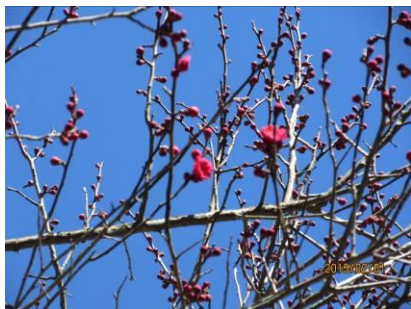


久良岐公園(くらぎこうえん)は、横浜市港南区と磯子区にまたがる、横浜市の都市公園(総合公園)。面積は、約23万㎡。汐見台団地の造成にあわせて整備され、1973年(昭和48年)に開園した。名称はこの一帯の古い地名である久良岐郡から採られ、公募により決定した。中央付近に池があり、北側は散策路のある雑木林の先に久良岐能舞台がある。南側は運動広場や芝生広場、桜の林、横浜市電の保存車両などがあり、春には花見客でにぎわう。



風情のある公園です 冬から目覚め春の息吹が感じられます。

ここの池の奥にある梅はチラホラ咲き



久良岐能舞台に行く途中に↓富士山が綺麗に見えましたが建物が邪魔。しかし能舞台の後はP1巻頭の写真です。



←街と富士がよく見えました。12時前です。

【久良岐能舞台】

久良岐能舞台 [編集]

園内の北側にある能舞台。1917年(大正6年)に東京日比谷の帝国ホテル裏に建てられ、1931年(昭和6年)に東京芸術大学の前身である東京音楽学校邦楽科に寄贈された。同大学は1964年(昭和39年)に能舞台が新設されたため解体保存されていたが、宮腰直治が譲り受け、当地に移築した。1984年(昭和59年)に横浜市に寄贈され、市民の能楽・茶道・日本舞踊などの活動に使われている。鏡板には、日本画の大家平福百穂による老松が描かれている。



【岡村公園】「昼食」 11:50~12:40 7,000歩 平成27年度会費と保険受付と吉越さんからのお話

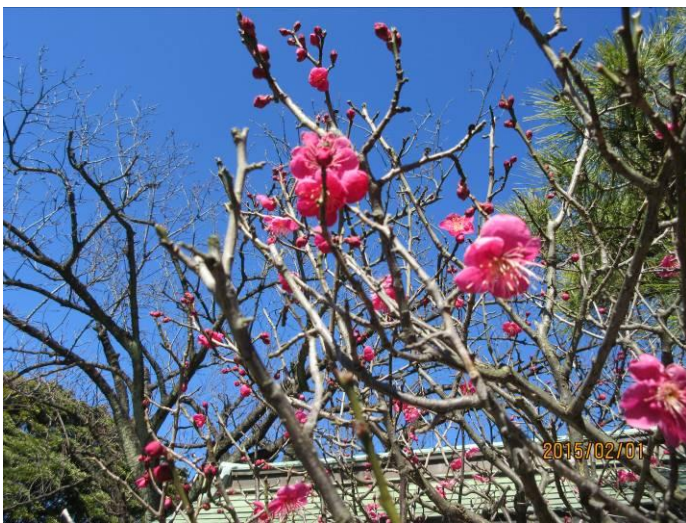


梅はまだつぼみ
陽の当たる場所最高でした。

【岡村天満宮】京都の北野天満宮の分霊を、源頼朝の家臣が祭ったことが始まりと伝えられています。境内には針塚や筆塚の碑、撫でると御利益がある石の牛象があります。



天神様と牛について
 天神様すなわち菅原道真公がお生れになつたのが仁明天皇の承和十二年(八四五年)乙丑年六月二十五日(丑の日)菅公が遷され九州へ向う途中藤原時平が笠原頼朝に命じて土師の里をとり囲み菅公をさしおこししようとした公の従者田口連音島田臣等が迎え討つて菅公を白牛が飛び乗って宿務を角殺し公の危難を救つたと言ふ伝説がある。
 菅公が五十九歳で亡くなつた時筑前国(福岡県)四ツ堂のあたりに墓所を定めて葬らうと牛車(表の車を引出し)の途で牛車がか動かなくなつてしまつたのでこの場所が氣に入らぬのだらうと考へてその場所に埋葬された。これが本守府天満宮のはじまりとされて居る。
 仏教で言う大自在天の姿が八臂三眼にして白牛に乗るとされて居る。
 此の石牛は明治四十二年五月二十五日に地元及崇敬者有志一同して奉納されたもので天神様の御像として居る全体がまろやかであたかぬがけり優美な牛像として全国的にもまれにみる逸品である。この牛を撫でるとその手足に人体の患部を撫でると効果があるといふ。これに近年受験生が頭を撫でると姿を見られ天神様の御像として有名である。
 昭和六十一年八月
 岡村天満宮 宣司



樟について
 樹令推定約七百年昔落雷にて幹が裂たと伝えられている。
 昭和初期までは木の中程に穴があつて水がたまつて居り、霊水とよばれてきた。
カ石について
 江戸近郊の神社に及び、れがくらべのために奉納されたと言はれて居るが古くは石に神霊がやどるといふ思想がありそれを差し上げることにより神の意を知らうとした一種の石占であった。
 差し上げた人の名前や重量を刻し奉納したものや、石そのもの名をつけたものがある。八十貫五十貫四十貫のものが普通とよばれて居るが、これだけの数かまじつて在るのは希である。
 岡村天満宮 宣司
 2015/02/01



天満宮から下りてきました。街中には大鳥居があります。

掘割川を磯子橋で渡ります。



【旧柳下邸】 弁天通りにあった「鴨居屋」の銅鉄取引豪商の、大正時代に建てられた和洋折衷の高台にある豪邸。裏山に映えて綺麗です。 昔懐かしい冷蔵庫や、裏には蔵がある。



【班別写真】

第3班

第2班



第1班

(少々入り乱れております)

【根岸八幡神社】



石段と神社、今日は良くお参りしました。
 (孫娘の大学受験も近いこともあり全ての神社参拝。)



【根岸森林公園】

【一等馬見所】

沿革 (編集)

当地は1866年(慶応2年)に開設され、1867年(慶応3年)に日本初の洋式競馬が行われた横浜競馬場の跡地で、現在も残る「旧一等馬見所」は関東大震災以前に建築家のトビ モーガンの設計で再建されたもの。戦前には「帝王賞賞典(現:天皇賞)」や「横浜農林省賞典四歳特馬(現:皇月賞)」などの大レースが行われるなど、日本における洋式競馬の黎明期を代表する競馬場で、各地に設立された競馬場のモデルともなった。

戦争が激化した1942年(昭和17年)に競馬の開催を中止し、翌1943年(昭和18年)には海軍により接収され閉鎖。終戦後の1945年(昭和20年)9月、他の軍事施設と同様にアメリカ軍により接収され、1947年(昭和22年)からはアメリカ軍の管理下に置かれた。接収中、馬場跡のエリアは米軍専用のゴルフ場となっており、現在の芝生はその名残でもある。

1969年(昭和44年)に旧スタジアムなど一部を除き接収が解除され、国有地となった敷地の大部分を横浜市が無償で借り受けて整備し、1977年(昭和52年)10月に根岸森林公園として開放された。あわせて、その他のエリアも1969年(昭和44年)より日本中央競馬会が整備を進め、1977年(昭和52年)に「根岸競馬記念公園」として開設し、馬の博物館もここに含まれる。1982年(昭和57年)には旧スタジアムも返還され、「旧一等馬見所」の裏手にはモーガンの設計図や竣工当時の写真パネルが展示されている。

「根岸競馬場跡」の記録は1994年(平成6年)3月に横浜市教育委員会文化財課と横浜国際観光協会が設置したものである。グラウンドスタジアムの設計者名が「W.A.ドーン」となっているが、これは人名ではなく「ウッド・イールド・アンド・ドーン」という二人のイギリス人技師の設計事務所の名前である。



【梅林散策】 310本の梅。ここの梅も今から咲き始める。公園西側、小高い丘に囲まれ、梅には品種名がつけられ平坦地から緩やかな斜面に満開に咲く風景は素晴らしいと思います。



丘に登る道端の「ミツマタ」は満開でした

【参考までに満開時の梅林】 (HP から引用しました) ↓2枚



咲き始めのこの時期、枝ぶりの良い梅の木全体より、咲き始めの花のポイント写真にならざるを得ませんでした。

【梅林の丘で集合写真】米軍のゴルフ場があった場所でその芝生です。打ちおろすと気持ちいいでしょう！



佐藤伊さんによるクールダウン

今日最後の石段を降ります。「白滝不動尊」



【アフターウォーク in わん】



編集後記：2月最初の例会は、絶好の日本晴れ好天气に恵まれました。眺めの良い丘に神社と公園があり、それを繋ぐ為登り下りの石段があり、楽な散歩とはさせません。地元とは言え流石平嶋しさん、素晴らしいウォーキングコースでした。更に終日日本晴れで、青空の富士山も見ることが出来ました。下見を含めご苦勞様、有難うございました。テーマ名も洒落た～梅がほほえむ～春はもうすぐそこまで来ております。

いつものボケ防止日記帳「メモと写真」です。失礼な記述や、誤記があるかも知れませんが悪しからずお許しの程。説明文はHPから引用しました。ウォーキング人物写真は小島さんレポートでご覧下さい。